

ムーンショット目標策定の考え方・基準（リバイス版）

<策定の方針>

ビジョナリー会議第1回会合におけるビジョナリー意見やECレポートを踏まえ、

- ① 日本が挑戦的研究開発を優先的に推進すべき分野・領域（2～3の大目標）を特定し、
- ② それら分野・領域毎に、挑戦的研究開発の推進により達成を目指す、具体的なミッション（ムーンショット目標）を1又は数個（合計5つ程度）策定してはどうか。

<ムーンショット目標（ミッション）の策定基準>

○ Inspiring

- ✓ 困難だが、実現すれば将来の産業・社会に大きなインパクトが期待されるもの（→国民・産業界）

→ 「ムーンショット型研究開発制度の基本的考え方」（平成30年12月20日CSTI決定）

- ✓ 多くの国民や海外と価値観を共有できるものであること（→国民・世界）

→ 国民が夢を持ち、とりわけ若者がロマンを感じるようなストーリー性が必要、夢があって世界各国が次々と集まってくるような目標が望ましい（第1回会合）
ミッションとは、潜在的な価値観に基づく野心を示すものであり、市民の願望や社会のニーズを満たす必要（ECレポート）

✓ 我が国の国益や産業競争力の確保に向け、科学者の英知を結集し

て行うことができるもの（→研究者・産業界）

→ 「ムーンショット型研究開発制度の基本的考え方」（平成 30 年 12 月 20 日 CSTI 決定）

○ Imaginative

✓ 目的や緊要性が明確に理解されるもの

→ 多くの国民にとって、実現できている状況が映像で頭の中に想像できること（着地点のイメージ）が必要（第 1 回会合）
ミッションとは、切迫感と意味感の両方を与えるもの（EC レポート）

✓ 多くの国民が、テクノロジーが切り拓く未来の可能性を明確にイメージできるもの

→ 多くの国民にとって、実現できている状況が映像で頭の中に想像できること（着地点のイメージ）が必要（第 1 回会合）

○ Credible

✓ 未来の社会システムの変革をも目指すものであること

→ 法律の変更も含めた社会システムをデザインするような目標が重要（第 2 回会合）

✓ 野心的であるが、科学的に実現可能性を語り得るもの（実現可能性のある技術的なアイデアが複数存在すること）

→ （ムーンショット研究を成功させる要素は）本当に実現できそうだというセオリー（科学的な理論）が存在すること等（第 1 回会合）

✓ 達成状況が検証可能なものであること

→ 具体的なターゲットが明確化されていることが重要（第 1 回会合）

✓ 既存の関連する戦略や施策の方向性と整合的であること

→ AI、バイオ、量子等の戦略との相乗効果が発揮できることも重要（第 1 回会合）